

道路建設産業労働組合協議会
組合員意見交換会



組合員意見交換会 レポート

日時

2025年11月14日（金）組合員意見交換会13時～17時、懇親会17時～18時30分

場所

アートホテル日暮里ラングウッド（東京都荒川区東日暮里5-50-5）

参加者

職種・年齢問わず各単組4名×9単組＝34名（1単組のみ2名）、厚生労働省1名、日建協1名、道建労協役員11名、単組オブザーバー1名・・・合計**48**名

内容

意見交換会：道路建設業界の現状分析をしたうえで、「30年後の道路建設業界の明るい未来像について」をテーマとした「グループディスカッション⇨発表」

挨拶

道建労協 加藤議長、道建労協役員（自己紹介）、
厚生労働省オブザーバー、日建協オブザーバー

道建労協の 組織説明



グループ ディスカッションの 説明

本題である「**30年後の道路建設業界の明るい未来像**」について意見交換する
事前準備として、現状把握や理想像について意見交換。

- 1 班 6 名。その中で「進行役」「書記」「発表者」を事前に決定。
- 1 班に 2 名の本部役員がオブザーバーとして参加（サポートのみ）

- グループ単位で、意見交換 ⇨ 意見整理書き出しを実施。
- 各グループの発表者がグループ内でどのような意見が出たのか？を発表。

現状確認

- ・現在の道路建設業界で、誇れる点や強みは何だと思いますか？
- ・逆に、今一番大きな課題や不安は何でしょうか？
- ・業界のイメージと、働いてみて実際に感じるリアルな姿はどう違いますか？

工事書類・社内書類に関して（建設業法・労働安全衛生法）

- ・現在の書類業務で「一番負担になっていること」は何ですか？
- ・書類のデジタル化はどこまで進んでいますか？まだ紙でやっている理由は？
- ・安全のために必要なのは「書類」だと思いますか？それとも「人の行動」だと思いますか？
- ・書類が減ったら、どんな時間が生まれ、その時間を何に使いたいですか？

AI やICT 技術の発展について

- ・すでに現場で使っているAI やICT 技術はありますか？効果はどうですか？
- ・近い将来、どのような事が出来るようになると思いますか？
- ・AI やICT が進んだ未来で、私たち人間にしかできない価値は何だと思いますか？

労働時間・働き方について（労働基準法）

- ・今の働き方で一番“ここが変わったらいいな”と思うことは何ですか？
- ・労働基準法などの規制が無ければどんな働き方がしたいですか？
- ・休日や休暇が増えたら、何にその時間を使いたいですか？

お金や制度について （転勤） （給与格差） （人事評価）

- ・転勤があることで得られるメリットとデメリットは何だと思えますか？
- ・現在の一般職と総合職の給与差について、どう感じていますか？
- ・給与・昇進・評価は「努力を認めるもの」か「成果を認めるもの」か、どちらであってほしいですか？

人間関係について

- ・職場での人間関係において、あなたにとって「絶対に譲れないこと」は何ですか？
- ・「良い上司」とはどんな人だと思えますか？逆に「良い後輩」とは？
- ・世代や国籍を超えた多様なチームで働く未来はどう思えますか？

現状分析をふまえ、具体的未来像を班ごとに構築

今の子どもや孫の世代に「道路建設業界で働きたい」と思わせるには、どんな未来が必要ですか？

- 3K（きつい・汚い・危険）の払拭と安全性の確保が必須。
- 高給与・安定した雇用、誇りを持てる職業イメージの構築。
- 「カッコいい」「楽しい」業界としてPRし、ゲーム感覚の操作や体験イベントで子どもに魅力を伝える。
- ICT・ロボット技術を活用し、未来的でスマートな現場を実現。
- 女性や多様な人材が働きやすい環境整備。



AI やICT の進化で、どんな仕事がなくなり、どんな仕事が生まれていると思いますか？

➤ なくなる仕事：

単純作業（測量、書類作成）、事務系業務、危険な現場作業。

➤ 生まれる仕事：

ロボットや重機の遠隔操作・メンテナンス

AIによる施工管理・データ解析

安全・品質監督（人間による判断が必要な領域）

ICT教育やシステム改善の専門職。



30年後、働き方はどう変わっていると思いますか？

- 週休3日制や短時間勤務が一般化。
- リモート施工管理や複数現場の同時遠隔管理が可能。
- 働き方の選択肢が増え、ライフスタイルに合わせた柔軟な勤務体系。
- 危険な現場作業は減り、より安全で快適な労働環境。



給与や評価制度はどんな仕組みになっていると、みんなが納得できると思いますか？

- 業界全体の給与水準を底上げし、魅力ある報酬体系に。
- 評価の見える化（360°評価、AI補助評価、業務ごとの成果連動）。
- 公平性を担保するため、マニュアル化やデータに基づく評価。
- キャッチコピーやPRで「高収入・専門性」を強調。



2055年の新聞に、道路建設業界に関するどんな“明るいニュース”が載っていたらうれしいですか？

- 「無人施工が完全実現し、事故ゼロを達成」
- 「道路建設業界が若者の人気職種ランキングTOP3入り」
- 「再生素材100%で施工、環境負荷ゼロ」
- 「業界最高給与を実現」
- 「新しい交通網が完成し、社会インフラが革新」



- 労働組合だから取り組めるプログラムであり、悩みは共通であると改めて認識した。
- 世代や職種を限定しなかったことにより、多角的な意見を引き出すことができた。
- 現状分析では人材不足・高齢化など暗い傾向が多い中、「30年後の明るい未来像」には夢物語ではなく、地に足を付けた案が多数出た。
- 厚生労働省や日建協の参加により、建設業界での横串が図られる。
- 「道路はインフラの一丁目一番地」と書かれた走り書きには道路建設業界への誇りと自信が垣間見れる。
- 業界の魅力化には「安全・誇り・未来感」が鍵であり、AI・ICTは業務構造を大きく変える。

